

ADVANTEST[®]

2023年度（2024年3月期） 第3四半期決算説明会

2024年1月31日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

2023年度第3四半期決算報告

経営執行役員
CFO & CSO (Chief Strategy Officer)
経営戦略本部長 三橋 靖夫

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

四半期業績推移

(億円)

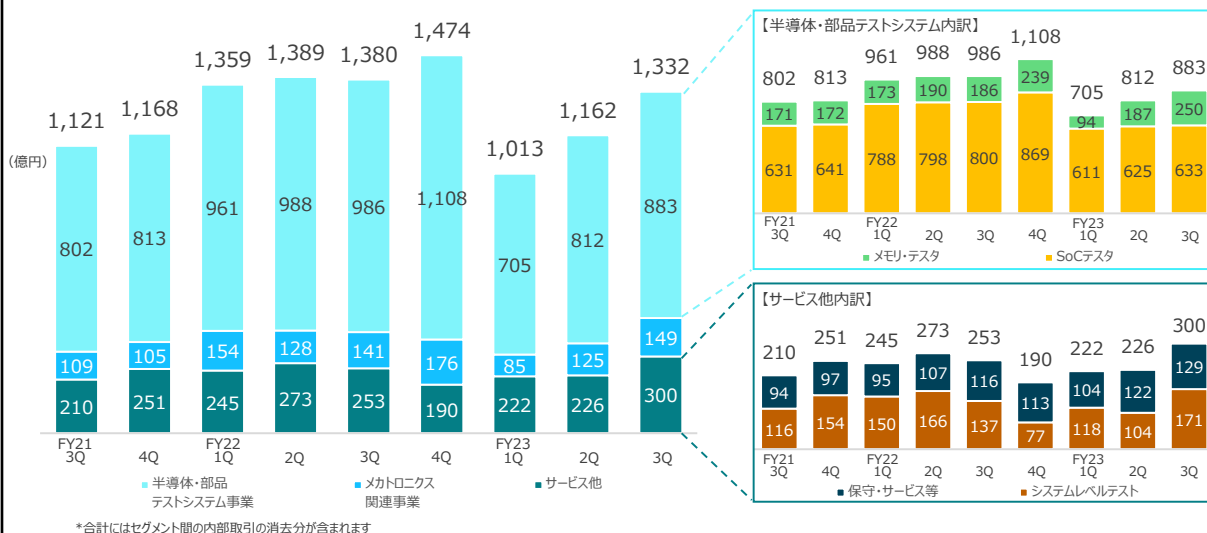
	FY22				FY23				前期比		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率	増減額	増減率	
	売上高	1,359	1,389	1,380	1,474	1,013	1,162	1,332	+170	+14.6%	-48	-3.4%
売上総利益	789	799	816	787	510	580	674	+93	+16.1%	-142	-17.4%	
売上総利益率	58.1%	57.5%	59.1%	53.4%	50.3%	49.9%	50.6%	+0.7pts		-8.5pts		
営業利益	448	431	412	386	143	210	268	+58	+27.8%	-144	-34.9%	
営業利益率	32.9%	31.1%	29.9%	26.2%	14.1%	18.1%	20.1%	+2.0pts		-9.8pts		
税引前四半期利益	484	468	377	384	130	203	263	+59	+29.0%	-114	-30.2%	
四半期利益	365	347	286	306	92	167	212	+45	+26.7%	-74	-26.0%	
四半期利益率	26.8%	25.0%	20.8%	20.8%	9.1%	14.4%	15.9%	+1.5pts		-4.9pts		
為替レート	1米ドル	124円	135円	144円	133円	135円	142円	149円	7円 円安		5円 円安	
	1ユーロ	134円	139円	144円	142円	146円	156円	159円	3円 円安		15円 円安	
1株当たり配当額*1	-	65円	-	70円	-	65円	-	-	-	-	-	

*1:当社は、2023年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。FY22およびFY23 2Q末については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております

○ 2023年度第3四半期の業績概要

- ・ 第3四半期実績は売上、利益ともに第2四半期を上回る結果となりました。
- ・ 残念ながら前年同期比ではいまだマイナス傾向ですが、回復の兆しは出てきています。
- ・ 生成AI関連では旺盛なメモリ・テストへの需要に対応することで売上が伸長しました。加えて、一部の高性能なSoC半導体向けテストおよびシステムレベルテスト（SLT）での売上が前期比で増加しました。
- ・ 詳細は以降のスライドで順次ご説明いたします。

四半期売上高 事業セグメント別



○ 2023年度第3四半期の売上高

すべてのセグメントで前期比増収となりました。

○ 半導体・部品テストシステム事業

- SoCテストは、前期並みの633億円でした。
- 車載・産業機器などの成熟プロセス品向けでは、前期までに高水準に出荷が進んだことから、顧客の投資に服感が見られ、前期比で売上が減少しました。一方、先端プロセス品向けでは、ハイ・パフォーマンス・コンピューティング（HPC）向けに加え、アプリケーション・プロセッサ（APU）向けが本格回復とは言えませんが、増収となり、成熟プロセス品向けの落ち込みを補う格好となりました。
- メモリ・テストは、前期比62億円増の250億円でした。生成AI向けで高性能DRAM向けの売上が伸長しました。

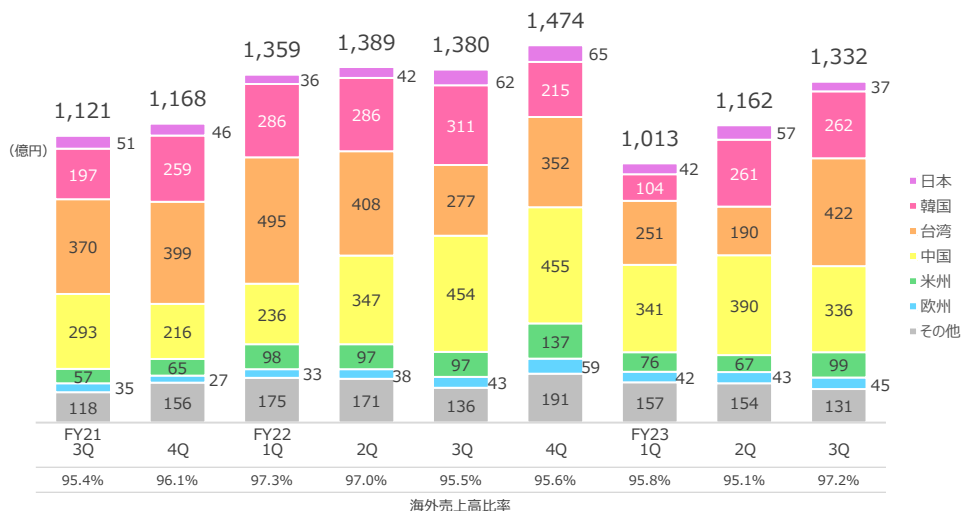
○ メカトロニクス関連事業

- テスタの販売増に連動してデバイス・インタフェースの売上が増加しました。

○ サービス他

- SLT事業において、ハイエンドSoC向けで増収となりました。

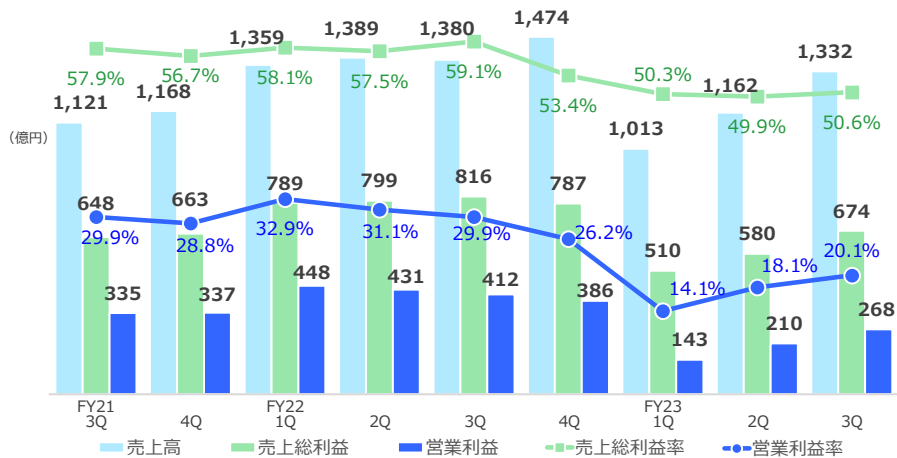
四半期売上高 地域(出荷先)別



○ 2023年度第3四半期の地域別売上高

- 台湾**
 ハイエンドSoC向けでSoCテストの売上が大きく増加したことに加え、SLTの売上も伸長しました。
- 韓国**
 SoCテストは売上が減少しましたが、DRAM向けを中心とするメモリ・テストの売上が増加し、全体としては前期に引き続き高水準な売上となりました。
- 中国**
 ハイエンドSoC向けで売上が減少しましたが、全体としては高水準な売上は継続しています。

売上高/売上総利益/営業利益



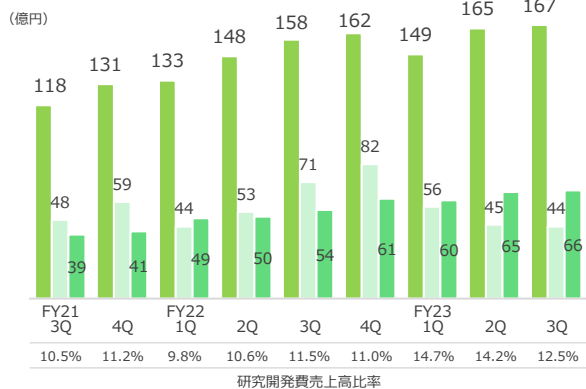
○ 2023年度第3四半期の売上高/売上総利益/営業利益

- 売上高は前期比で増加したものの、売上総利益率については前期比で微増に留まりました。
- 販売費および一般管理費等（その他収益・費用を合算）は、前期比で35億円増加しました。ただし第2四半期には受取和解金等約32億円を含んでおり、実際の販管費は、前期比でほぼ同水準でした。

投資等/キャッシュ・フロー

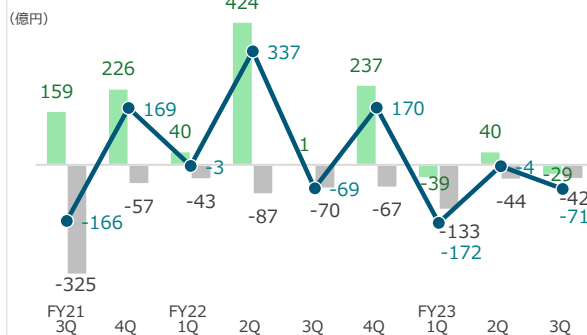
<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

○ 2023年度第3四半期の研究開発費等

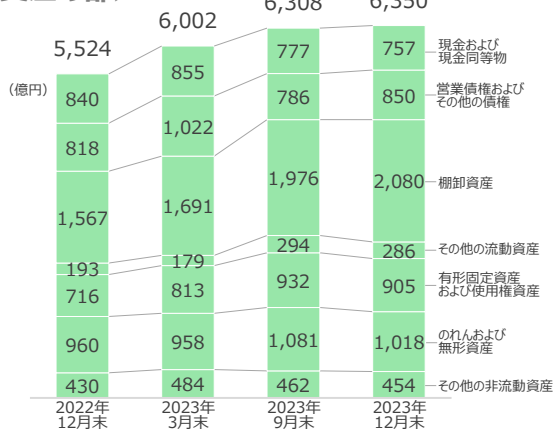
- ・ 研究開発費、設備投資、減価償却費は前期から大きな変動はありませんでした。

○ 2023年度第3四半期のキャッシュ・フローの状況

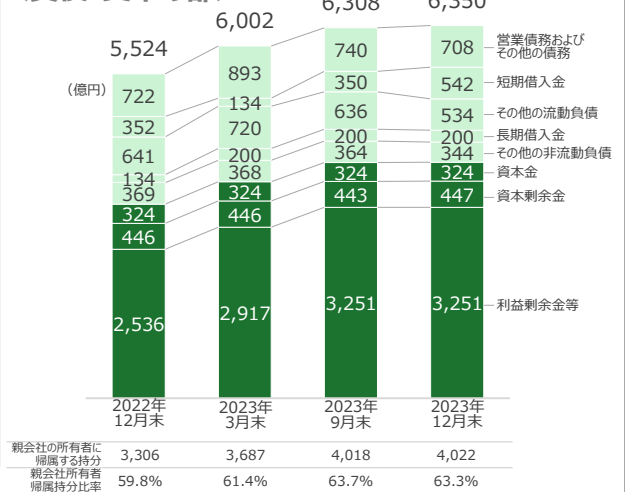
- ・ 昨年度利益をベースとした法人税や賞与の支払いなどから、フリー・キャッシュ・フローは71億円の支出となりました。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2023年12月末時点のバランス・シート

- 高性能メモリなど需要が旺盛な領域向けに供給能力増強を図る一方で、他の領域では顧客の延伸要求への対応などもあり、棚卸資産は高い水準で推移しました。
- 負債の部では、当四半期の決算資金も考慮し、追加の借入金を実行しています。
- サプライチェーン管理の高度化を推進し、棚卸資産をなるべく早期に資金化できるように努めてまいります。

2023年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 Group CEO 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

事業環境と半導体テスト市場の動向 <24年1月時点の見方>

<事業環境>

- 世界経済は、コロナ後の正常化が進んだものの、米国などでの景気後退懸念、地政学的リスクの拡大、急激な為替変動リスクなど、CY24も不確実性の高い状況は継続
- 半導体市場においては、半導体の在庫調整がようやく改善の兆しがみられ、今後生成AI関連へ向けた投資の活発化も予想

<半導体テスト市場>

- CY23の半導体テスト市場は、スマートフォンやPCなど主要な民生機器向けで需要の停滞が長引き、関連する半導体の設備投資の抑制が想定より長期化。CY24の回復カーブは年後半になる見込み
- 生成AI向けの需要の高まりに連動したテスト需要が増加する見通し。SoCテスト市場は、HPC/AI向けを軸に需要の立ち上がりをCY24後半に期待。メモリ・テスト市場は高性能DRAM向けがけん引し急速な立ち上がりを見込む

	CY22実績	CY23実績（暫定）	CY24推定
SoCテスト市場	約\$4.0B	約\$3.3B-3.4B (10月時点推定:約\$3.3B-3.4B)	約\$3.3B - 3.6B
メモリ・テスト市場	約\$1.2B	約\$1.1B (10月時点推定:約\$1.0B-1.1B)	約\$1.3B - 1.6B

Source: Advantest

○ 事業環境と半導体テスト市場の動向

- 2023年の半導体テスト市場は、期初の想定より伸び悩みました。スマートフォンやPCなど主要な民生機器向けで需要の回復が遅れた影響で、2023年初頭には、年後半に回復すると見込んでいたテスト需要も立ち上がりが遅延しています。
- そのため、2023年のSoCテスト市場規模は、33億米ドルから34億米ドルの間に留まったと見ています。2024年は、HPC/AIなど高性能半導体向けを軸に、需要の立ち上がりを年後半に期待しています。市場規模は33億米ドルから36億米ドルの間を見込みます。
- 2023年のメモリ・テスト市場は、11億米ドル程度と見ています。2024年は、13億米ドルから16億米ドルの間を見込みます。不揮発性メモリ向けではテスト需要の回復が年後半から緩やかに回復するものと見込みます。高性能DRAM向けの領域では、顧客の生産計画の増加や、品質保証強化の動きに連動し、テスト需要は急峻に立ち上がると見込んでおり、通年活況が続くとみています。
- 2023年のマーケットシェアは、SoCテスト、メモリ・テスト共に50%台後半に達したのではないかとみています。

FY23業績予想

(億円)

	FY22	FY23					前年度比		(参考)新旧予想比較	
		実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期予想	増減額	増減率	10月時点 FY23予想
	売上高*1	5,602	1,013	1,162	1,332	1,293	4,800	-802	-14.3%	4,700
営業利益	1,677	143	210	268	229	850	-827	-49.3%	800	+50
営業利益率	29.9%	14.1%	18.1%	20.1%	17.7%	17.7%	-12.2pts		17.0%	+0.7pts
税引前利益	1,713	130	203	263	229	825	-888	-51.8%	785	+40
当期利益	1,304	92	167	212	174	645	-659	-50.5%	600	+45
当期利益率	23.3%	9.1%	14.4%	15.9%	13.4%	13.4%	-9.9pts		12.8%	+0.6pts
研究開発費	601	149	165	167	159	640	+39	+6.5%	640	-
設備投資	250	56	45	44	65	210	-40	-16.0%	210	-
減価償却費	214	60	65	66	69	260	+46	+21.5%	260	-
為替レート*2	1米ドル	134円	135円	142円	149円	145円	143円	9円 円安	142円	1円 円安
	1ユーロ	140円	146円	156円	159円	155円	154円	14円 円安	153円	1円 円安

*1: 合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

*2: 為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+8億円です。対ユーロは-3億円です

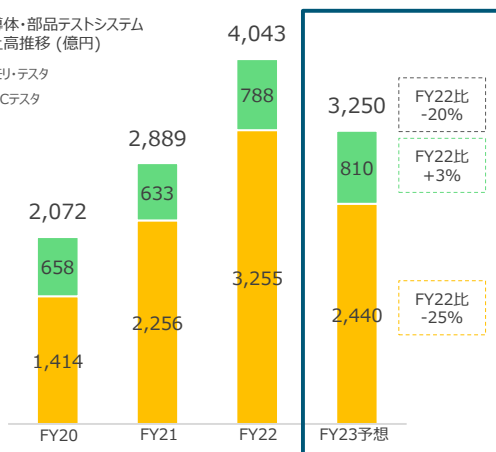
○ 2023年度の業績予想

- 第3四半期までの実績と第4四半期の見通しを踏まえ、2023年度の業績予想を上方修正します。
- 売上高は、メモリ・テスト需要の高まりなどを鑑み、10月時点の予想より100億円引き上げ、4,800億円とします。
- 売上総利益率は、およそ50%程度と前回からの見方を変えていません。
- 販管費の見通しについても変更はないため、営業利益は50億円の増益と予想します。
- なお第4四半期の予想の前提とした為替レートは、米ドルが145円、ユーロが155円です。
- 為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、通期で対米ドルでは1円安時+8億円、対ユーロでは-3億円です。米ドル取引での売上が減少する見込みのため、10月時点より米ドルでの感応度を1億円引き下げています。

FY23見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）

■ メモリ・テスト
■ SoCテスト



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>（10月予想比 -40億円）

– 高性能半導体向けでは、徐々に需要の回復がみられるも、車載・産業向けでの需要は弱含むなど、本格的な需要回復には今しばらく時間を要する見込み

アプリケーション別内訳	FY20	FY21	FY22	FY23(予)
コンピューティング・通信	55%	60%	65%	55%
車載・産業機器・民生・DDIC*	45%	40%	35%	45%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

<メモリ・テスト>（10月予想比 +50億円）

– 顧客からの旺盛な投資を見込む高性能DRAM向けを中心に、テストの供給体制の増強により増収の見込み

アプリケーション別内訳	FY20	FY21	FY22	FY23(予)
DRAM	60%	60%	60%	90%
不揮発性メモリ	40%	40%	40%	10%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

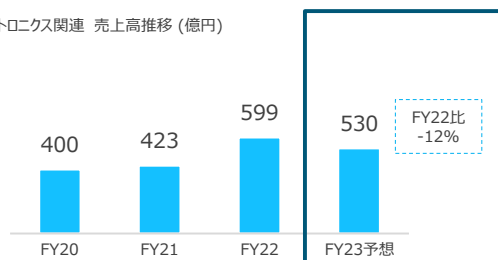
* DDIC:ディスプレイ・ドライバーIC

○ 半導体・部品テストシステム事業の今期見通し

- SoCテストの通期売上予想は、10月の見通しから40億円引き下げ、2,440億円とします。
- 高性能半導体向けでは、徐々に需要の回復が見られる一方で、車載・産業機器向けなどの成熟プロセス品向けでは、下期にかけてこれまでの高水準な設備納入に比べ顧客の投資に一服感が見られます。
- 先端プロセス品向けでは、生成AI関連などの需要増に向けた顧客の生産が、テストの余剰解消を徐々に促しつつあるものの、本格的なテスト需要の回復にはもう少し時間を要すると見込んでいます。
- メモリ・テストの通期売上予想は10月の見通しから50億円引き上げ、810億円とします。
- 生成AI関連でのHBMなど高性能DRAM向けでは、中期的な需要拡大や高信頼性要求を背景に、旺盛な需要を見込みます。この需要をしっかりと捉えるため、供給体制の増強を進めており売上予想を引き上げました。

FY23見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）

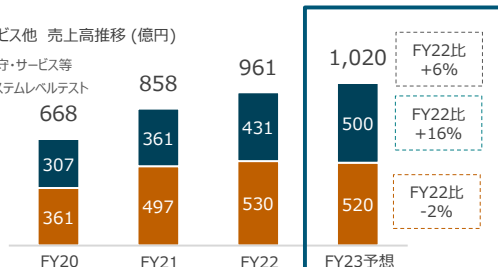


メカトロニクス関連事業（10月予想比 +50億円）

–メモリ・テストの売上予想引き上げに伴い、関連するデバイス・インタフェース製品の売上予想を引き上げ

サービス他 売上高推移（億円）

■保守・サービス等
■システムレベルテスト



サービス他事業（10月予想比 +40億円）

–当社製品の設置台数の着実な伸びにより、保守サービスの需要は堅調

–システムレベルテスト事業は、半導体市況低迷を受けた顧客の投資動向の影響を受け、前年度並みの売上の予想

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メカトロニクス関連事業の通期売上予想は10月の見通しから50億円増額しています。
- メモリ・テストの通期売上予想引き上げに伴い、関連するデバイス・インタフェース製品の売上も増加する見込みです。
- サービス他事業については、通期売上予想を10月の見通しから40億円引き上げます。
- サービス保守事業は、当社製品の設置台数の着実な伸びを受けて、底堅い需要を見込んでいます。
- SLT事業においては、半導体市況低迷を受けた特定顧客の投資動向の影響を受け、前年度並みの売上に留まるものと考えます。今後、HPC/AI向けなどSLTの採用を期待できる領域へソリューションの提供と顧客基盤を広げる施策を進め、中長期での増収と収益性の向上につながる取り組みを推進していきます。

サマリー

- 高性能メモリ向けテスト需要の伸びに呼応し、供給体制を増強、売上予想を100億円増額
- 民生品向け半導体の在庫調整の長期化が、昨年度の高水準なSoCテスト出荷によるキャパの余剰消化の進捗にも影響
- CY24は生成AI関連向け半導体需要の高まりが、関連する設備投資を促進、テスト需要を年後半からけん引する見込み
- 生成AI技術の進展がもたらす半導体バリューチェーンの変化を捉え、新たなソリューションの提供を進め、顧客基盤の拡大を目指す
- 収益性改善の施策を推進
 - 需要変動にも柔軟に追従するサプライチェーン管理を高度化
 - より付加価値の高いソリューションの提供と共に、販売価格の見直し、原価低減活動などの取り組みを強化

○ サマリー

- 高性能メモリ向けテスト需要の伸びに呼応し、供給体制を増強しています。10月時点で予想した通期売上高4,700億円を100億円増額します。
- 一方で、SoCテスト需要の回復は想定より遅れています。HPC/AIなど高性能半導体向けのテスト需要は上向くものの、テスト設備の余剰消化にかかる期間は、改善の兆しは出てきましたが、期初想定していたより長期化しています。
- 2024年については、半導体需給の改善を見込みます。民生向け半導体の需要回復に加え、生成AI関連向け半導体需要の高まりと供給側でのキャパアップの実現で、関連する設備投資が促進され、テスト需要も年後半からけん引すると見込みます。
- 中長期的には、生成AI技術が進展する中で、産業構造や社会の仕組みも変化していきます。当社は半導体バリューチェーンの変化を捉え、顧客基盤の強化を図るとともに新たなソリューションの開発でさらなる成長にチャレンジしてまいります。
- 最後に収益性の改善についてです。この1年の変化は大きなものでしたが、半導体の需要は今後も変動を繰り返します。需要変動に柔軟に追従するサプライチェーン管理の高度化を推進していきます。
- 収益性の改善は、新たな高機能デバイスなど技術進化に応じ、より付加価値の高いソリューションの提供を通じて行うことが基本となりますが、並行して部材調達コストの上昇を踏まえた販売価格の見直し、原価低減活動の取り組みを強化してまいります。

ADVANTEST®

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION